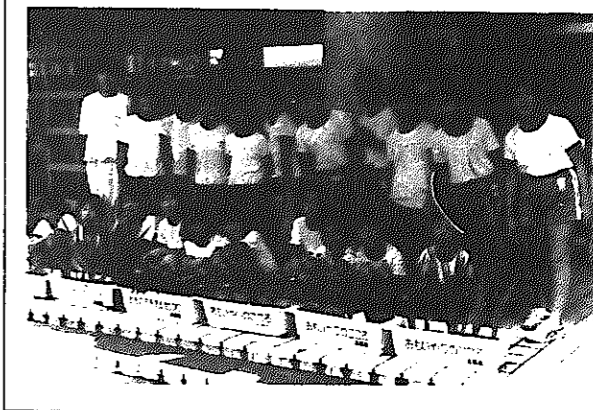


ま ち の 話 題

花づくりで情操を豊かに

白根小学校児童会の理科委員会委員二十人・杉沢 歩委員長)では、新潟県地方事務局などが主催した「人権の花運動」に取り組み、全員が協力して花を咲かせたことから、同法務局からお礼の手紙が届きました。同委員会では、マリーゴールドなど四種類の種子とグラジオラスの球根で「来年もぜひ育てたい」と話し、担当の山口律子先生は「みんな一生懸命がんばってくれました。花を育てることで、この運動の目的である『情操豊かな子』になってくれればと考えています」と話していました。



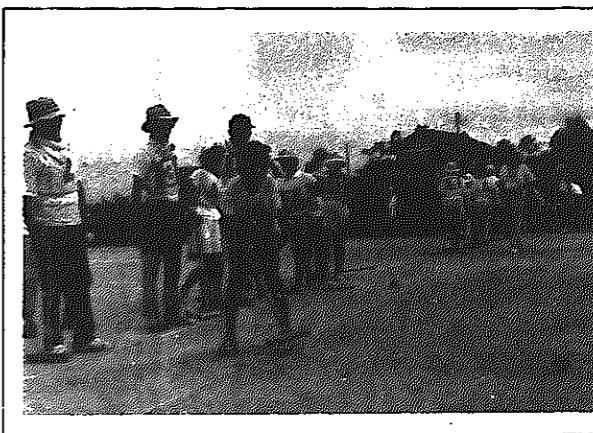
凧で交流を深める

三市中蒲チビツ子フェスティバルが本市で開かれました。これは他市町村との子供どうしの交流を深めようと、三市中蒲公民館連合会と地元公民館が毎年持ち回りで開いているもので、初めて会場となった本市では、凧をテーマに実施。各市町村から参加した小学校五、六年生の児童約百人は、凧資料館を見学し、教育委員会体育館で凧づくり。苦労しながらも好みの字や絵を描いて楽しんでいました。その後は、総体グラウンドで大凧二枚と海外の珍しい凧を揚げ、初めはその大きさに驚いていた子供たちも、凧に乗って悠々と揚がる大凧に感激した様子。



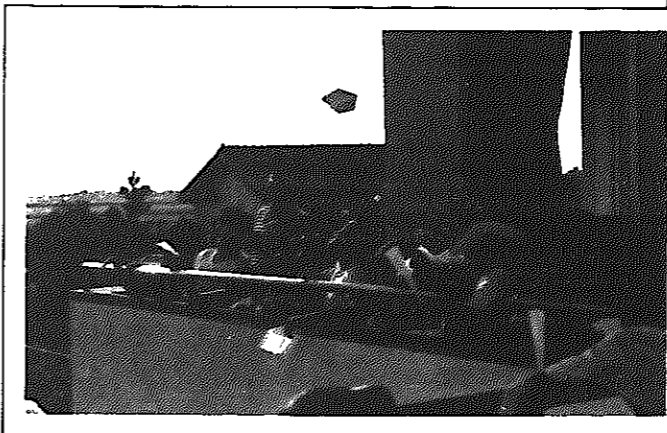
祖父母と孫が交流

新飯田地区・孫親田地区公民館では昨年続き、八月二十一日、地域生活センターで「孫親ゲートボール大会」を開きました。参加したのは老人クラブのゲートボール部員と、新飯田小学校四年生の児童で、一チーム児童二人を含む六人の八チームで競い合いました。同ゲートボール部の週二回の活動に併せ、児童たちも夏休みに入ってから大会まで、お年寄りの指導を受けながら練習を積み重ねてきました。「今年の子供はなかなか上手」と、目を細めながら話す丸山岩雄審判長。



夏休みの最後を楽しむ

小林地区・子供ひろば。夏休みも終わりに近づいた八月二十七日、子供たちから一日たっぷり楽しんでからおとうと、小林地区公民館では「夏休み子供ひろば」を開きました。地域生活センターに集まった小学校一年生から六年生までの約五十人は、映画を見た後、指導を受けながら紙ひこうき作り。そして、二階のベランダから飛ばして滞空時間を競い合いました。夜は星の会の協力を得て天体観測。小林小学校グラウンドに集まり、土星の輪や天の川など、親子ともども会のメンバーに熱心に質問しながら眺めていました。



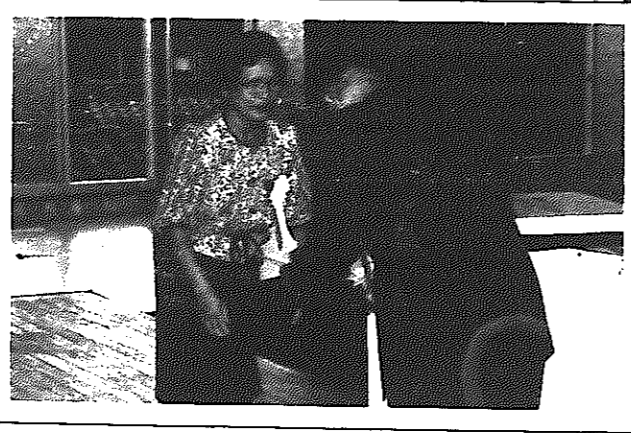
交通安全メッセージを伝達

キャラバン隊 (県母の会連合会ら一行八人) が本市を訪れ、市役所前で総務庁長官のメッセージを市長に伝達しました。これは交通安全意識の啓蒙のため、全国母の会連合会が毎年実施しているもので、北陸・東北コースとして二日に富山県から引き継ぎを受け、四日に山形県へ受け継がれました。当日は、市母の会、安全協会、白根保育園の園児ら約三百人ほどが迎え、一行は伝達式の後、老人クラブ員を対象とした「お年寄りの自転車教室」を視察し、次の目的地、三条市へ向かいました。



助け合いの輪を広げよう

市社会福祉大会 九月十日、産業厚生会館で約二百人が参加して市社会福祉大会が開かれました。この日は、白根高校三年生の田中和浩君、井上三男君、石田豊実市身体障害者福祉協会会長、渋川善太郎市老人クラブ連合会会長の体験発表があった後、県保育専門学校の中村与吉先生から「現代の社会福祉問題について」と題して記念講演がありました。被表彰者は次のとおり。功労表彰Ⅱ大野ミツイ(大郷)、木乃実会(南麩新商店、永年勳章表彰Ⅱ本間忠衛(東笠巻新田)、大矢三七五(鷲ノ木)、青木チイ(能登一丁目) 感謝状Ⅱ細貝忠幸(五六ノ町二)



学習とスポーツで交流

北信越青年団連絡協議会 九月五日、六日の二日間、青年教育センターで「北信越ブロック青年団交流会」が開かれ、石川、福井、富山、長野の各県と本県青年団を合わせ約五十人が参加しました。この交流会は、同ブロック青年団連絡協議会が「各県相互の連絡協調を図り、青年団の発展を目指す」ため毎年開いているものです。五日は各県の実状などを話し合う学習会が中心で、六日は県団対抗バレーボール大会を行い、サーブエースなど親善試合とは思えない名プレーが続出。会場は笑いと拍手にまつまれました。



清掃し樹木を見守る

白根ライオンズクラブ 老人福祉センターの南側に松やシラカバ、ツツジなど、さまざまな種類の樹木が植えられています。これを「ライオンズの森」と言います。これは、昭和四十八年に同センターが開館した直後、白根ライオンズクラブ(笹川徳雄会長・会員二十八人)が寄贈、植樹したもので、同クラブでは以来毎年、清掃活動を行っています。今年も九月二日、メンバー約二十人が草取りをしたり、落ち葉などを拾い集めたりしました。同センターはもうすぐ開館十五周年。毎日、七十人から百人くらいのお年寄りに利用されています。

